よこはま支部だより

第74号
2021年 冬

一般社団法人　神奈川県建築士会　横浜支部
THE YOKOHAMA BRANCH KANAGAWA PREFECTURE
SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

P1:表紙
P2:年頭挨拶
P3:支部記念講演会「開港都市・横濱　その前・その後」に参加して
P4:賛助会の紹介・編集後記

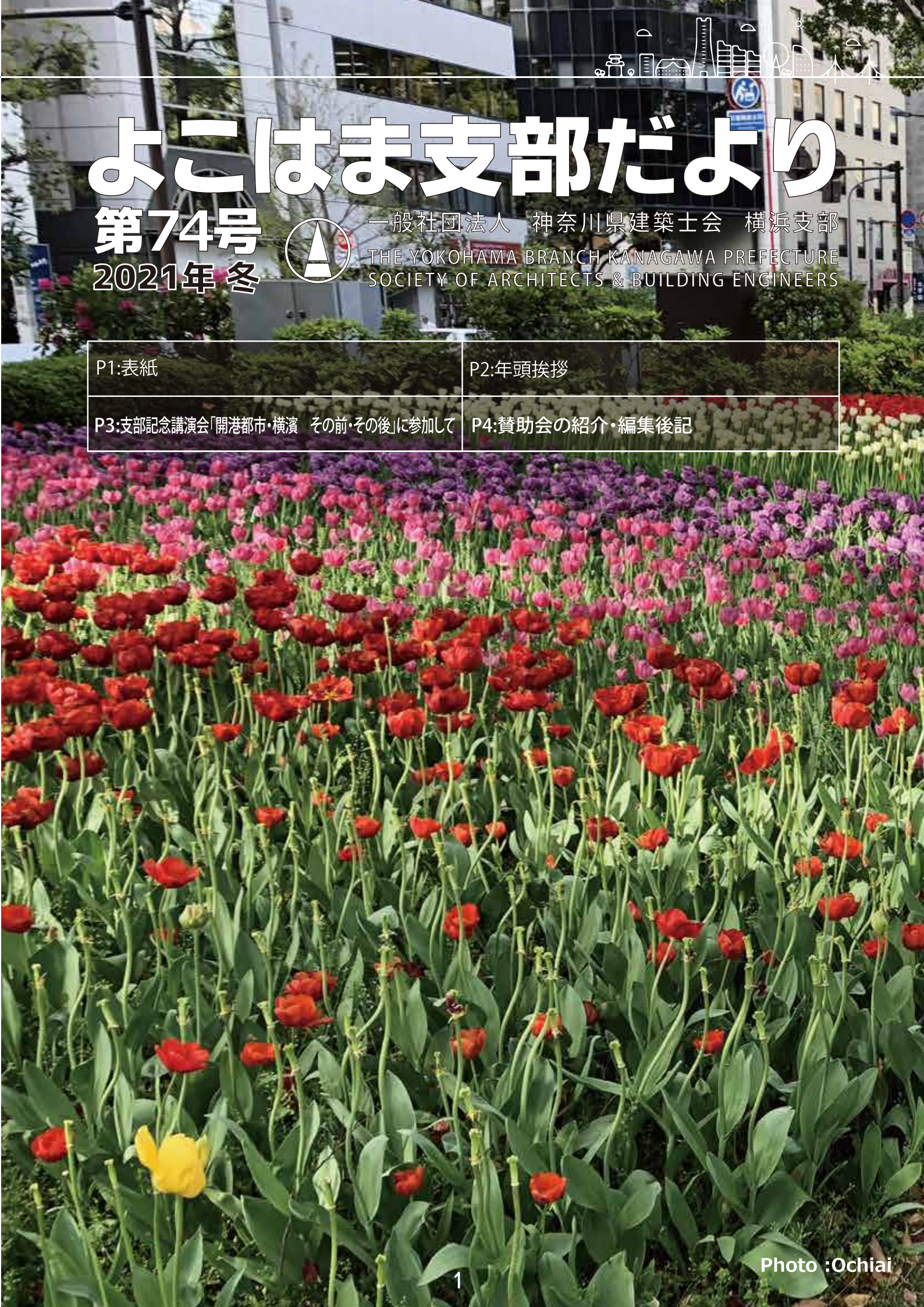

Photo :Ochiai

年頭挨拶

一般社団法人神奈川県建築士会横浜支部　支部長　渡邉 一郎

新年明けましておめでとうございます。皆様にとって良い年になることを祈念申し上げます。

昨年は新型コロナウィルス感染で厳しい環境下、活動して参りました。建築士試験制度変更で一級建築士受験者数の大幅増加、それに伴う試験監理官、試験補助員の確保が大きな課題となり、又試験当日は検温、机や椅子の消毒等の作業が発生したにもかかわらず皆様の協力で無事乗り越える事が出来ました。然しながら二級建築士試験受験者は減少しております。考えられることは工業高校建築科を卒業し設計へ目指す門戸が減っているのでは…設計や行政に携わる皆様には工業高校建築科新卒生に興味を持って頂きたいと思います。昨年小生が責任者を務める建設関連団体では次代の技術者育成を求め、初めて横浜市へ市立の建築科、土木科のある工業高校設立を要請しました。若いうちからしっかりした技術者、設計者を育てることは大事と思います。

コロナ禍で停滞した活動ですが、皆様の努力でようやく11月に講演会を開催し多数の入場者が会場を埋めました。この講演会で改めて横浜で生まれ、仕事をする幸せを感じました。横浜市は戦後中心市街の復興と活性のため横浜市六大事業を1965年市民へ向け提案しました。その中にベイブリッジ、MM21が盛り込まれ現在の発展に至っております。都市の発展は建築士である会員へ活躍の場を提供します。然しながらベイブリッジ、MM21の本格的建設はオイルショックをはじめとする経済情勢の影響などにより計画が進まず、1980年代になりました。優秀なプランを計画しても実現する経済と経済を支える人々の英知が如何に重要かを考えさせられます。コロナ禍で経済は傷んでおります。昨年は、横浜市では予算執行の大きな見直しはありませんでしたが、神奈川県内の自治体で予定していた学校の建設事業を年度中に議会を開催し執行を見合わせる等、建築士の活躍の場が奪われた例があります。またリモートワーク等在宅勤務が増え働く形態が変わりつつありますが移動という手段が激減する事、ある面では時代に沿っていると考えられがちですが、建築士の活躍の成果品であるオフィスビルが不要になる、将来的不安があります。それは多くの建築物が要らなくなる事にも通じ兼ねず大変心配しております。コロナ禍が収束し一日も早い経済の回復を祈念しております。

厳しい環境下でも横浜支部会員の皆様には建築士として襟を正し、業務に打ち込むことが重要です。設計や施工、行政の現場において建築士の業務は終わりのないと言われたのは小生がまだ駆け出しの昭和の頃で、今は働き方改革を通じ効率性を求められております。新しい若い世代の活躍の場を広げるためにご理解頂きたいと存じます。

終りに本年が支部会員の皆様がコロナ禍でも大きく飛躍されることを祈念し、年頭の挨拶とさせて頂きます。

支部記念講演会「開港都市・横濱　その前・その後」に参加して

横浜支部　畠　宏好

概要
2020年11月21日（土）14:00～
横浜メディアビジネスセンター
１階ハーバーダイニング
【講演者・パネリスト】
槇　文彦（槇総合計画事務所代表）
福永知義（槇総合計画事務所副代表）
陣内秀信（法政大学特任教授）
桂　有生（横浜市都市デザイン室職員）

当日は抜けるような青空、一時、コロナ禍の憂鬱を忘れさせてくれました。
今回は、横浜と東京の会場に分かれ、リモートでの開催となりましたが、さらに感染対策を十分にとり、入り口で、検温・手指の消毒を行った上で、間隔をあけて着席します。コロナ禍の収束が見通せない中、開催にこぎつけたことは、総務委員会関係者の熱意と周到な準備のたまものです。

会場内に設置されたスクリーンに東京会場の様子が投影され、いよいよ講演会が始まります。前半は、槇先生の基調講演、後半は、陣内先生らも加わってパネルディスカッションという構成です。

槇先生の肉声はどれも興味深いものでしたが、田村明との人脈によって「アーバンデザイナー」としての槇文彦と横浜市との関係が築かれていく様は、本人だからこその臨場感にあふれていました。後半のパネルディスカッションでは、改めて、建築・都市・ウォータフロントについて考えさせられ、知的な興奮を味わうことができました。ここで、あらすじを書いてもどうかと思いますので、当日、ずっと考えていたことを少しご披露したいと思います。

60年の時を経て、村野藤吾と槇文彦という二人の建築家が、同じ横浜市庁舎を設計しています。物理的な規模の拡大や、技術革新などの要素を除いたとしても、同じ市庁舎が「なぜ」こうも違ったものになるのか？私は、違っていることを否定的に捉えているのではなく、同じ市庁舎に対して、二人の建築家が示した「解」が異なっていることを、むしろ喜ばしく思っています。同じ市庁舎と書きましたが、敷地（立地）は異なります。二人の建築家は、その時代や立地を十分に読み解き、自らの経験と信念を「かたち」にしたものと思います。それこそが建築の醍醐味なのではないでしょうか。

賛助会員のご紹介

㈱星
㈱渡辺組
東京ガス㈱
㈱キクシマ
不二物産㈱
㈱ヒライデ
横浜エレベータ㈱
㈱カンディハウスヨコハマ

【編集後記】

新年あけましておめでとうございます。昨年2月から続く新型コロナウィルス感染症は、寒さ厳しいこの時期にも感染力を強め、拡大を続けております。
この度発刊させて頂きました「よこはま支部だより　第74号」は前号と同様、各委員会事業も十分に行えない状況が現在も続いている為、縮小版とさせて頂きました。ご了承下さい。
会員の皆様におかれましてはお身体には十分にお気をつけの上、お元気でお過ごし頂き、一日も早い収束を願いながら、再びお会いできる日を楽しみにしております。

【広報委員】

白井崇雄・落合　博・玉野直美・丸山幸一
雨森隆子・足立哲郎・太田真理子・遠堀太陽
松本新吾・菅股　篤

【発行】

一般社団法人 神奈川県建築士会 横浜支部事務局

〒231-0011 横浜市中区太田町2-22
神奈川県建設会館５階

Phone：045-201-1284
Fax.：045-201-0784
http://www.kanagawa-kentikusikai.com/sibu/yokohama/